Ⅰ　寛容の心

１　共生社会と多様性

世界は急速にグローバル化し,我が国にも大勢の外国人が来日し,仕事のメンバーとして,地域の一員として生活している。海外で生まれ育った，異なった価値意識や社会規範，行動規則をもつ人々が日常的に触れ合い関わり合いながら社会を形成していく時代であり，多様性（ダイバーシティ）に富んだ社会を築いていくことが求められている。多様性といかに共存していくかは各個人にとっても身近な課題となっている。

しかし，目を社会に転じてみると，同質性の高い小さなグループで仲間内だけに通じる言葉をつかい，他を排除する若者たち，ブログの炎上やヘイトスピーチなど自分と意見を異にする人への一方的かつ執拗な攻撃,他人の過ちへの激しい糾弾などの現代社会の風潮がある。日本人の美徳とされてきた「惻隠の心」も失われかけている。寛容とは程遠い現実もある。

ＮＨＫが平成 28 年 5 月に実施した世論調査の結果が公表された。
それによれば，今の日本の社会について，自分と意見や立場が異なる人を認める寛容な社会であると答えた人が全体の 44％であったのに対して，自分と意見や立場が異なる人を認めない不寛容な社会であると答えた人は 42％であった。寛容な社会であると答えた人の方が多いとはいえ，その差はわずか 2 ポイントである。

ところが，今の日本の社会について，他人の過ちや欠点を許せる寛容な社会であると答えた人が全体の 41％であったのに対して，他人の過ちや欠点を許さない不寛容な社会であると答えた人は 46％と，逆に 5 ポイントも多くなっている。

そして，関連するその他の質問事項に対する回答から導き出されたことは，今の日本の社会が「不寛容社会」であるという調査結果であった。

我が国では，昔から「郷に入っては郷に従え」の言葉があるように，私たちは集団への同化を求めがちだが，人間は多様であるということを前提にし，寛容で温かな社会の実現を目指したい。それはいろいろな人が心豊かに暮らせる「共生社会」でもある。

２　寛容の心の育成

教育再生会議第九次提言「全ての子供たちの能力を伸ばし可能性を開花させる教育へ」では，教育現場が直面する子供たちとして，①発達障害など障害がある子供たち，②不登校等の子供たち，③学力差の大きい子供たち，④何らかの分野で突出して能力をもち，適切な支援によって才能を開花できる子供たち，⑤日本語能力が十分でない子供たち，⑥家庭の経済状況に恵まれない子供たちを挙げ,諸施策を充実させるよう提言している。上記のほかにも，最近は，性同一性障害など性的マイノリティの子供の問題もある。すなわち，どんな人にも尊厳があり，対等な人間であるという，人間の等価性を意識した教育が求められていると言ってよい。

しかし，いじめ防止対策推進法が施行され，各教育委員会や学校で様々な対策を講じてきているものの，いまだに深刻ないじめ問題が発生している。いじめを苦にして何人もの中学生が自ら命を絶っているし，福島県から原発避難してきた小学生がいじめに遭って不登校になっていたということもある。

「特別の教科　道徳」はいじめ問題の根絶を願って教科化された背景もあり，内容項目「相互理解，寛容」は，いじめ問題解決のためにも，子供たちに考えさせ，実践できるようにしたい価値項目である。

小学校学習指導要領「特別の教科　道徳編」の「相互理解，寛容」の内容項目の解説に次のように述べられている。

> 人の考えや意見は多様であり，それが豊かな社会をつくる原動力にもなる。そのためには，多様さを相互に認め合い理解しながら高め合う関係を築くことが不可欠である。自分の考えや意見を相手に伝えるとともに，自分とは異なる意見や立場も広い心で受けとめて相手への理解を深めることで，自らを高めていくことができる。異なった意見や立場をもつ者同士が互いを尊重し，広がりと深まりのある人間関係を築くためにも欠かせないことである。また，寛大な心をもって他人の過ちを許すことができるのは，自分も過ちを犯すことがあるからと自覚しているからであり，自分に対して謙虚であるからこそ他人に対して寛容になることができる。このように，寛容さと謙虚さが一体のものとなったときに，広い心が生まれ，それは人間関係を潤滑にするものとなる。
>
> しかし，私たちは，自分の立場を守るため，つい他人の失敗や過ちを一方的に非難したり，自分と異なる意見や立場を受け入れようとしなかったりするなど，自己本位に陥りやすい弱さをもっている。自分自身が成長の途上にあり，至らなさをもっていることなどを考え，自分を謙虚に見ることについて考えさせることが大切である。相手から学ぶ姿勢を常にもち，自分と異なる意見や立場を受けとめることや，広い心で相手の過ちを許す心情や態度は，多様な人間が共によりよく生き，創造的で建設的な社会を創っていくために必要な資質・能力である。今日の重要な教育課題の一つであるいじめの未然防止に対応するとともに，いじめを生まない雰囲気や環境を醸成するためにも，互いの違いを認め合い理解しながら，自分と同じように他者を尊重する態度を育てることが重要であると言える。

今，ＩＣＴや人工知能（ＡＩ）が社会の在り方を大きく変えつつある。子供たちが生きる 2030 年の社会の変貌は予測できないが，最後の砦は人間性にあると思われる。

こうした展望のもと，寛容の心を育むことが今日的な課題であると考え，幼稚園・子ども園，小学校，中学校，高等学校，特別支援学校，家庭や地域で，どのような実践をしたらよいかを探ることとした。